Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-07-03

第3章　歴史資料・災害資料の保全・活用

吉川，圭太
木村，修二
奥村，弘
古市，晃

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,19（2020（令和2）年度事業報告書）:43-44

(Issue Date)
2021-03-22

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013430

第3章
歴史資料・災害資料の保全・活用

歴史資料ネットワークへの協力・支援

1．災害対応

歴史資料ネットワーク等と協力し、2019年台風19号による被災歴史資料の保全活動について、栃木・群馬の関係者等と情報共有をはかり、現地資料ネット立ち上げを支援した。

（文責・吉川圭太）

2．神戸市兵庫区平野地区における活動

本年度も「奥平野古文書勉強会」が毎月1回（第2日曜）開催され、すべての例会で木村がチューターを行った（8月は休会）。なお、新型コロナ感染拡大の影響により、2020年3月、4月、5月の例会が中止となった。

（文責・木村修二）

石川準吉関係資料の調査

石川準吉は、朝来市生野町出身で企画院官僚を経験し、『国家総動員史』の編集を担い、生野代官所等の研究者でもあった人物である。同氏が蒐集した資料のうち、官僚期の史料及び国家総動員史関係史料については、国立歴史民俗博物館に保存されている。本年度は十分な調査を実施することができなかったが、生野代官所関係史料も含め、今後の保全・活用の方法を検討中である。

（文責・奥村弘）

附属図書館震災文庫への協力

本学の都市安全研究センター「東北大学等との連携による震災復興、並びに災害科学分野における学術研究の支援経費」に基づき、災害資料学の実践的研究を附属図書館とともに行なった。

本年度は「第10回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会」（2021年2月22日、オンライン開催）を開催し、東日本・新潟の公立図書館及び大学図書館、国立国会図書館など15機関・33名の参加を得た。東日本大震災10年をむかえる福島県の原子力災害被災地での震災アーカイブをめぐる現状と課題、阪神・淡路大震災資料の公開・活用をめぐる近年の動向や課題などについて報告がなされ、全体で意見交換を行った。

また、附属図書館震災文庫と協力し、同文庫受け入れの未整理一次資料について目録作成を行い、公開のあり方などについて意見交換した。このほか、株式会社サンテレビジョン撮影・制作による阪神・淡路大震災関連映像の震災文庫への提供・公開にあたり、デジタルアーカイブ学会「肖像権ガイドライン案（第3版）」を参考に人文学研究科地域連携センターが肖像権の確認を行った。これを踏まえ、サンテレビ・震災文庫・地域連携センターが公開について協議を行い、2021

年 1 月 14 日に震災文庫 WEB サイトにて 1 件の映像が先行公開された。

（文責・吉川圭太）

人文学研究科古文書室の所蔵文書整理

今年度は事業として行っていない。

（文責・木村修二）

国立歴史民俗博物館の共同研究

１．国立歴史民俗博物館協同研究「聆濤閣集古帖の総合資料学的研究」

今年度は事業として実施なし。

（文責・古市晃）